

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-364
研究課題名：東日本大震災における疾病構造死因に関する研究
研究期間 西暦2013年11月（倫理委員会承認後）～2015年3月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（カルテ）
上記材料の採取期間 西暦2011年3月～2011年4月
意義、目的 東日本大震災では、巨大津波による広範な被害により、約1万9000人の人々が死亡・行方不明となった。死因の90%以上は溺水とされ、阪神・淡路大震災における死因の約80%が窒息・圧死であったことと異なる様相を呈した。東日本大震災後の被災地からの報告では、防ぎえる災害死があった可能性を指摘しているが、未だ東日本大震災の疾病構造と防ぎえる災害死の全体像は不明であり、すべての傷病者を対象とした疾病構造の把握と死亡原因の実態調査が必要である。「防ぎえる災害死」とは、平時の救急医療が提供されていれば救命できたと考えられる災害死と定義され、救急医療・災害医療に見識がある医師2名で診療録などから判断する。実態調査を受け、今後の災害医療体制見直しに必要な課題を抽出し、急性期の災害医療のあり方に関する具体的な行動計画を示す。 本研究は東日本大震災における疾病構造と死因の実態調査を行うことにより、急性期災害医療の問題点を抽出する。その上で、本震災での問題点を次の災害に活かすべく、マニュアルやガイドライン等を具体的に示し、急性期災害医療全体の改善を図ることを目的とする。
方法 東北大学病院をはじめとする宮城県災害拠点病院（15病院）あるいは死亡者が20名以上いた病院（23病院）のいずれかを満たす25病院の死亡患者996名25病院を訪問し、996名の診療録を検討し、死亡患者データベースを作成し、死亡原因、死因が災害と関連しているかどうか、防ぎえる死かどうかを解析することである。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学 大学院医学系研究科 救急医学分野 助教 山内 聡 電話番号 022-717-7489